

平成29年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成30年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成29年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成30年3月

国体推進局長 国久 敏弘

項 目	実 施 結 果
<p>1 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に ◇県民総参加の福井国体【部局連携】 ○国体と障スポの融合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体と障スポの融合に向け、国体と障スポの一体的な運営を推進します。また、可搬式の車椅子用トイレの購入や融合を推進する事業への補助など市町への支援を行い、障害の有無にかかわらず広く県民がスポーツに参画できる環境を整備します。 ・福井国体と全国障害者スポーツ大会の略称を「国体・障スポ」とします。略称を載せた公式ポスターやプロモーションビデオなどを活用し、融合について県民に周知します。また、著名人の協力などを得て、全国へ広めます。 <p>交流拡大施策</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>車椅子バスケットボール、車いすテニスの会期前開催に向け、競技団体との協議を進めました。</p> <p>融合の機運を盛り上げるため、開催1年前イベントとして、車椅子バスケットボールの日本代表選手による講演や、デモンストレーションゲームを民間団体の協力を得て実施しました。</p> <p>また、県が市町に貸与した可搬式車椅子トイレとオストメイト対応トイレをカヌーなどのイベント会場に設置し、障害のある方の観戦を促進しました。</p> <p>さらに、市町が実施するスポーツ体験教室などの事業への補助を行い、障害の有無に関わらず一緒に交流する機会を創出するなど、県民に障害者スポーツの魅力を広めました。</p> <p>「国体・障スポ」のロゴデザインを掲載した公式ポスターやパンフレットなどを開催前イベントやプレ大会、国体・障スポの総会などで使用し、融合について周知しました。</p> <p>融合のプロモーションビデオを、昨年12月に開催したはぴりゅうフェスタや会議などで上映し、融合を県民に分かりやすく伝えました。また、報道により融合について全国へ発信しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○競技会の開催準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体競技会の円滑な運営のため、市町が開催するプレ大会への支援や国体開催に必要な各競技の実施要項をとりまとめます。 ・市町の既存施設について、本県選手の練習の機会を確保するため、計画的かつ確実な整備を促進します。また、カヌーやトライアスロンなどのプレ大会の開催に向け、特設会場の整備を支援します。 ・障スポの競技を安全・円滑に運営できる会場整備に向け、競技会場ごとの詳細な利用計画や仮設物の設計図を策定します。 ・国体・障スポの選手・監督を受け入れるため、宿泊施設ごとの提供客室数や宿泊料金などを決定します。 ・選手や監督、観客に快適な空間を提供するため、歴史博物館や一乗谷朝倉氏遺跡資料館など社会教育・文化施設のトイレの洋式化などを行います。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>プレ大会については、今年度 37 種目開催しました。県は市町の運営費を支援するとともに、運営面の課題を他の市町と共有しました。</p> <p>各競技の実施要項について、競技団体が作成したものを県がとりまとめて調整し、日本体育協会による承認を得ました。</p> <p>競技会場の施設整備については、県有施設を含め改修等が必要な 43 施設のうち、今年度はテクノポート福井総合公園スタジアムや芝生広場など 10 施設が完成し、これまでの整備と合わせて 39 施設が完成しました。</p> <p>また、既存施設がなく仮設で整備する特設会場については、今年度プレ大会が開催された大野市九頭竜川特設カヌー会場など 6 施設の整備を行いました。</p> <p>障スポの競技会場となる 15 施設において、障害者団体や開催市町の意見を踏まえ、バリアフリーのための仮設物の配置など、選手や監督などの動線に配慮した会場整備のための設計を行いました。</p> <p>宿泊要項に基づき、各宿泊施設と客室の提供や宿泊料金等を定めた覚書を締結しました。</p> <p>また、宿泊施設への説明会や県・市町の旅館組合を通して、選手や大会関係者のニーズに沿えるよう、宿泊施設に対し更なる客室の提供を依頼しました。</p> <p>施設利用者の利便性を高めるため、今年度は、歴史博物館など 18 施設において、トイレの洋式化やオストメイト対応設備などの整備を行いました。</p>

項目	実施結果
<p>○開・閉会式の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開・閉会式に向け、式典演技や式典音楽の出演団体を決定し練習を開始します。また、オープニングプログラムに出演する文化・芸術・スポーツなどの団体を公募・選定します。 ・来場者の安全確保と式典等の円滑な運営を図るため、開・閉会式会場等の詳細設計と警備計画を策定します。 ・開・閉会式への参加者と観客の送迎を確実かつ円滑に実施するため、輸送実施計画を策定します。また、国体・障スポ期間中に必要なバス等を市町分も含め確保していきます。 ・開・閉会式、式典などの業務委託や物品購入について、県内企業や障害者授産施設への発注、県産品の活用などを進めます。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>式典演技、式典音楽、歓迎県民イベント等（旧称オープニングプログラム）の出演団体について、式典検討会において決定し、11月の常任委員会において公表しました。</p> <p>式典音楽については12月に録音会を、また、式典演技については1月以降に出演団体への振付講習会や振付確認会を行い、各団体において練習を開始しました。</p> <p>国体・障スポの開・閉会式の運営に当たり、詳細な計画を定めた式典実施要項を3月に策定しました。</p> <p>開・閉会式会場のロイヤルボックスや仮設スタンド等、仮設物の詳細な設計を行いました。</p> <p>また、警備員の配置場所や人数、業務内容などを定めた警備計画書を策定しました。併せて、警備員の確保のため、公共工事等の工期・工程の調整を関係機関に要請しました。</p> <p>会期中に必要なバスの提供を、石川、富山など近県のバス協会に要請しました。</p> <p>また、式典に参加する団体ごとのバス輸送、臨時駐車場の利用方法および運行管理要員の配置などを定めた輸送実施計画を3月に策定しました。</p> <p>開・閉会式会場の実施設計や式典実施要項の策定、ボランティア用のベスト、選手などへ渡す参加章、記念章および障スポメダルなどの調達を、県内企業や県内に支社を置く企業や障害者授産施設などに発注しました。</p>

項目	実施結果
<p>○広報・県民運動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催1年前イベントや新福井県民歌の普及、ダンスコンテストの開催、公式ダンスソングCDの販売など切れ目なく広報を展開するとともに、テレビや新聞等を通じた発信を増やし、開催機運を一層盛り上げます。 ・花いっぱい運動やスポーツGOMI拾い、県民募金など、県民が家庭や身近な地域で国体・障スポに参加できる機会を提供します。 ・全国からの来県者に本県の食文化や伝統産業、歴史の魅力をアピールするためのイベントや美術館などの特別展を、文化プログラムとしてとりまとめます。 	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>開催1年前を記念したイベントや、マスコットキャラクター「はぴりゅう」による各種イベント等での広報、機運醸成に向けたスポットCMなどにより、国体・障スポを一層PRし開催機運の醸成を図りました。</p> <p>「明治150年記念」の冠称について、実行委員会総会において8月に決定し、日本体育協会の国体委員会で承認を得ました。冠称については、国体・障スポのパンフレットや愛媛国体での入場行進用の横断幕などに掲載しました。</p> <p>花いっぱい運動、スポーツGOMI拾い、イベント等でのはびねすダンス、手作り応援のぼり旗の作成など、県民参加による活動を実施しました。</p> <p>また、募金用紙付き広報紙を10月から県内全域に配布し、国体・障スポ開催を周知するとともに、募金への協力を依頼しました。</p> <p>幕末明治福井150年博や恐竜、自然や歴史などをアピールする事業について、全ての市町から申請を受け、過去最高数となる409事業を文化プログラムとして決定しました。</p>
<p>○ボランティアの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営ボランティアを確保するため、社会福祉団体や企業などに協力を要請します。また、福井の魅力などに関する研修を実施し、来県者のおもてなしに活かします。 ・聴覚障害のある選手などへの手話や要約筆記を行う情報支援ボランティアを確保し、登録者への研修を実施します。また、協力校が実施する選手団サポートボランティア養成研修を支援します。 (平成28年度 502人) <p style="text-align: center;">情報支援ボランティア登録者数 98人増 累計600人</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>ボランティアの確保に向け、一般募集のほか、団体等へも協力を要請しました。</p> <p>また、ボランティア登録者を対象に、おもてなしの仕方や福井の魅力のPR方法に加え、本県独自にAED（自動体外式除細動器）の使い方についての研修会を県内各地で開催しました。</p> <p>情報支援ボランティアについては、目標を超える635人の登録があり、競技会場での活動に必要な知識やおもてなしなどの研修会を、昨年6月から今年1月にかけて県内5会場で各5回実施しました。</p> <p>また、選手団サポートボランティアの養成研修を4月から各養成協力校において開始し、障スポの概要説明や外部講師による手話等の研修を行いました。</p> <p style="text-align: center;">情報支援ボランティア登録者数 133人増 累計635人</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)